

平成17年1月17日

日本学術振興会  
プロセスシステム工学第143委員会  
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会  
第151回委員会・平成16年度第5回研究会 開催通知  
(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日 時：2005年2月4日(金) 13:00～17:00 委員会・研究会
2. 場 所：弘済会館 (東京都千代田区麴町5-1/電話：03-5276-0333)  
(交通：JR中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分)
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00) テーマ：「省エネ技術の最前線」
  - 13:10～13:50 「省エネルギーへの取り組みと具体的な技術開発テーマ事例」  
新エネルギー・産業技術総合開発機構 飯田 秀昭 氏  
<概要>エネルギー使用/見通しの現状を述べ、エネルギー政策(京都議定書、地球温暖化対策推進大綱見直し、2010年に向けた長期戦略、2030年エネルギー消費、省エネルギー技術戦略、省エネルギー目標、総合資源エネルギー調査会省エネルギー部会中間取りまとめ)を概説する。次に、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の役割・省エネルギー事業を紹介するとともに、取り組み中の技術開発テーマを紹介する。また、PSEへの期待を述べる。
  - 13:50～14:20 コーヒーブレイク
  - 14:20～15:00 「プロセス省エネ技術の動向(ピンチテクノロジー)」  
日揮(株) 小山 武志 氏
  - 15:00～15:50 「ピンチテクノロジーによるコンビナートのエネルギー共有の新展開」  
千代田化工建設(株) 松田 一夫 氏  
<概要>コンビナートの単一工場における省エネルギーは、既存技術の適用では既に限界に達していると言われる。はたしてそうであろうか?この限界を超えるために、コンビナート内複数工場間における熱エネルギーのカスケード的な共有による省エネルギーの可能性に着目し、千葉コンビナートにおいて、NEDO共同研究「ピンチテクノロジーによる工場地域のエネルギー共有技術の研究開発」を実施した。その研究成果から、今まで捨てられていた低位熱エネルギーを回収・共有することで、多大な省エネルギーの余地があることが確認された。同研究から理論的に導出された案件を紹介し、我が国のコンビナートにおける今後の方向性を考察する。
  - 15:50～17:00 総合討論  
コメンテーター (独)産業技術総合研究所 中岩 勝 委員

<追記>

準備の都合がありますので、出欠を裏面にご記入の上、2月1日(火)までにご回答下さい。